

スクール エール

Vol.18

地域の皆様に最高のおもてなしを

鹿屋看護専門学校 はくらんさい 白爛祭実行委員会



▲令和6年度白爛祭・オープンキャンパスで看護師体験をする参加者の様子。今年は10月3日(土)開催予定。

鹿屋看護専門学校の学校祭「白爛祭」の実行委員会は各学年に組織され、毎年2年生が中心となって活動しています。今年からは5人の実行委員で準備を進めています。当日は、バザーやリラクゼーション、喫茶などの楽しいコーナーを設けるほか、オープンキャンパスも同時開催します。オープンキャンパスでは、看護師体験や学校説明、交流会などを実施する予定です。

普段は学校と関わる機会が少ない方との交流を大切にしながら、入学を検討している方の背中を後押しできるよう、精一杯のおもてなしができるように頑張っています。



実行委員長
ひらた こうが
平田 洸雅 さん(2年生)

公民 地理 歴史 文化 文化財 まちづくり 人物 その他

かのや風土記の中身をさらに深掘り

鹿屋街道

第18路 水神様信仰が 伝える水への感謝

市内の川のほとりや田畑のあぜ道で、「水神様」の碑を見かけたことはありませんか。本市には、古くから水に感謝し、地域の平穏と豊作を祈る水神信仰が深く息づいています。



▲西大手町にある水神様。多くの市民が水を汲みにやってくる。

例えば、西大手町の水神様の碑では、今も湧き出る清らかな水を地域住民が生活水として大切に利用しています。こうした信仰の背景にあるのは、かつて水利に苦心した先人たちの歴史があります。

その象徴的な場所の一つが「和田井堰」です。江戸時代中期の宝暦3年(1753年)、当時の島津藩政時代に王子町に築かれた和田井堰取水口から川東町に至る約12キロメートルに及ぶ用水路が築かれ、大規模な新田開発が成し遂げられました。これ以降、毎年旧暦8月28日を

「水神祭」の日と定め、感謝の祈りを捧げるようになったとされています。

この伝統は今も途切れることなく受け継がれ、毎年秋には各地区で厳かな祭礼や、伝統芸能の奉納が執り行われています。祓川町で江戸中期から続く「八月踊り」は昭和37年に市無形民俗文化財の第1号に指定されました。また和田井堰公園で奉納される「王子町鉦踊り」は平成2年に市指定、令和2年に県の無形文化財に指定されています。このほか「八月口説踊り」(昭和46年市指定)や「光岡寺鉦踊り」など、水神様へ感謝を捧げる数多くの伝統芸能があります。

蛇口からきれいな水が出る現代ですが、本市では先人たちの絶え間ない努力があったからこそ今へとつながっています。だからこそ、身近な水神様へ目を向け、自然の恵みや地域で支え合う尊さをもう一度見つめ直してみませんか。



▲市の無形文化財第1号に指定された祓川町の八月踊り